

網を持って逆瀬川へ行こう！ ～家族で燃えたミヤマアカネ・マーキング2007

清水 知子・清水 政志・清水 要・清水 円
(ひとはく連携活動グループ あかねちゃんクラブ)

1. はじめに

ミヤマアカネは、日本でいちばん美しい赤とんぼといわれている。六甲山系の東側の仁川や逆瀬川のまわりには、たくさんのミヤマアカネがすんでいて、県内でも有数の生息地となっている。2004年から宝塚市の小学校と兵庫県立人と自然の博物館が共同で生息調査を行っており、2006年からはミヤマアカネのはねに番号をつけて放し生存日数や行動範囲を調べる「マーキング調査」が本格的に始まった。わが家も、子どもが通う宝塚市立西山小学校のPTA活動を通じて、2007年度の調査より参加することとなった。今回は、わが家が逆瀬川に通い、ミヤマアカネを追いかけた日々の活動記録を通し、家族で参加できるミヤマアカネ調査の楽しさを紹介する。

2. マーキングを始めたきっかけ

わが家は小学校2年生の息子（要）、幼稚園年長の娘（円）をもつごく普通の家庭である。わが家とミヤマアカネの出会い、2006年、近所に住む小学生から三校交流会（注）のミヤマアカネ・リサーチプロジェクトのことを聞いたのが初めてであった。おもしろそうだなと興味を持ち、同年8月に行なわれた「第二回ミヤマアカネまつり」にも参加したが、そのときは、こんなにマーキングに熱中し、ミヤマアカネまつりのお手伝いをするようになるなどは想像もしていなかった。

その後、子どもが通う西山小学校のPTA活動の一環で「コミュニティ西山」を通じて、ミヤマアカネ・マーキング活動の母体である「あかねちゃんクラブ」に参加できることを知り、家族で参加することにした。最初は、子どもに少しでも色々な体験をさせたいとの考えだった。

2007年8月3日深夜、逆瀬川での羽化観察会が初めてのフィールドでの活動であった。初めてトンボの羽化の瞬間を生で見ることができ、子どもとともに感動を共有することができた。また、深夜にもかかわらず、わが子を含め参加した子どもたちが好奇心いっぱい、生き活きと川原で活動している姿に、この活動の「意義」のようなものを感じた。この日をきっかけに、マーキング活動に足を踏み入れていくこととなった。

あかねちゃんクラブのメンバーの方が自作したマーキング台を頂き、わが家の専用ID「W4」も付与されたので、さっそく、8月5日に逆瀬川にて家族で初めてのマーキング活動を開始した。（図1）

最初は、オス、メスの区別も分からず、「みやまあかねとすてきななかまたち」（八木ほか、2006）を見ながら、なんとか記念すべき初マーキング「W4-1」を後翅に書き、再び空へ放った。

今、思い返せばミヤマアカネが「ただのアカトンボ」から「愛すべきアカネちゃん」に変わった瞬間であったのかもしれない。

初日は、約1時間で30匹にマーキングできた。この時期のミヤマアカネは比較的動きも鈍く簡単に捕獲できたため、マーキング数が増えていくのが楽しく、時間を見つけては、息子や娘と、時には一人で網を持って逆瀬川へマーキングに出かけるようになった。そして、気がついたときには、家族の中で母親の私（清水知子）がマーキングに一番熱中していた。

グループメール、Webサイトでの「あかねちゃんクラブ」メンバーの方々との情報交換で

皆さんががんばっているのに刺激され、日増しにマーキング活動に没頭していった。そして、メンバーで「1,000マーキング」を最初に達成し、メンバーの方から手製の記念品も頂いた。

また、自分が逆瀬川でマーキングした個体が仁川や別の河川で再捕獲された情報を聞くと「あんなに遠くへいったんだ」と感動を覚えるとともに「マーキング調査のやりがい」のようなものを感じ、ますます、マーキングが楽しくなっていた。マーキング調査の結果は「再捕獲情報」という「目に見える成果」として実感できるため「やりがい」を感じて継続できたものと思う。

そして、なんと、「ひとはく」の八木剛先生を通じてFM宝塚から出演の依頼を頂き、メンバー3人（通称：あかねちゃんクラブの3人娘）で出演し「ミヤマアカネ・マーキング調査」について熱くPRするなど、2007年の夏から秋にかけてはどっぷりとマーキング活動に足を突っ込んでいくことになった。

これらの経緯は、つぎのようになる。

年月日	活動内容
2007. 6. 24	活動計画打ち合わせ（活動に初参加）
2007. 8. 3	深夜の羽化観察会
2007. 8. 5	逆瀬川で初マーキング
2007. 8. 7	100マーキング達成
2007. 8. 27	第3回みやまあかね祭開催（宝塚ゴルフ倶楽部）
2007. 9. 1	500マーキング達成
2007. 9. 21	FM宝塚に出演 あかねちゃんクラブの活動をPR
2007. 9. 26	1,000マーキング達成
2007. 10. 14	一斉調査参加
2007. 10. 21	一斉調査参加
2007. 11. 14	最終マーキング

3. 目に見える具体的な成果

最終的には、2007年のわが家のマーキング調査は11月14日まで、延べ調査日数は44日間、マーキング個体数は1,447個体、再捕獲は293件となった。

あかねちゃんクラブ全体では、マーキング個体数は8,440個体、再捕獲は2,597件であった。最長生存日数は112日（カ-145、8/1～11/21）で、2006年までに確認された87日を大きく上回り、生存日数100日を超えた個体も計4例確認された。また、2006年に続き、2007年も逆瀬川、仁川から池田までの飛行（直線距離で約13km）が確認され、新たに芦屋川から仁川への飛行も確認されるなど、今後のさらなる調査により移動ルートなどが解明されれば面白いと思う。

このような情報は日常的にグループメールなどで流され、目に見える成果としてメンバーに共有された。わが家に関わったマーキング調査の成果としては、つぎのような例があった。

○W 4-1023 9月23日に宝塚市宝梅のわが家の庭にやってきてマーキングしたオス個体が、19日後の10月12日に仁川上流の甲寿橋付近で安達貴美子さんによって再捕獲された。わが家から巣立った子どもが仁川で発見されたようで、感慨深いものがあった。

○W 4-1082 10月5日11:30から12:30の間に逆瀬川のなかよし橋付近でマーキングしたメ



図1. 家族でのマーキング調査の様子
宝塚市逆瀬川なかよし橋付近にて

ス個体が、約24時間後に、西宮市の仁川広河原で安達貴美子さんによって再捕獲された。2007年に逆瀬川～仁川間の移動が確認された個体中の最速記録です。

○カ1-815 西宮市塩瀬町の赤子谷で安達貴美さんが9月28日にマーキングされたメス個体が、10月21日に逆瀬川のなかよし橋付近で連結しているのを確認した。ミヤマアカネの発生地と繁殖地について興味深いものがあると思った。

4. 家族で楽しめるミヤマアカネのマーキング活動

このようにマーキング活動に夢中になったが、活動に参加して良かったと思うことは下記のとおりで、家族それぞれの感想は図2のようであった。

- ① 子どもと一緒に家族みんなで楽しく活動できたこと
ミヤマアカネは見つけやすく、意外と捕獲しやすいため、子どもと一緒に活動することができた。原則、メンバーが好きな時間に自由にマーキング活動を実施しているので、家庭にとって負担にならない。ときにはメンバーと時間を合わせていっしょに実施するのも楽しいが、自分の都合に合わせて無理なく実施できた。
- ② 素晴らしい自然環境が身近に残っていることを実感できたこと
逆瀬川は宝塚市の住宅街を流れる川であるが、川原に降り、ミヤマアカネを追いかけることで、ミヤマアカネだけでなく様々な生き物が棲んでいる素晴らしいフィールドであることを実感することができた。子どもたちはマーキングに飽きると魚や蝶を追いかけていた。
- ③ 老若男女、いろんな方々と交流することができたこと
「あかねちゃんクラブ」には老若男女、様々な年齢層の方々が参加し、それぞれのペースでマーキング活動を行っている。メンバーの方々と交流することにより、みなさんのミヤマアカネに対する思い、地域の環境に対する思いを知ることができた。また、逆瀬川のすばらしい環境が色々な方の努力で守られていることを知り、清掃活動にも参加させていただいた。

安達ほか（2007）は、ミヤマアカネのマーキング調査に夢中になった理由として、キャラクターが親しみやすいこと、マーキングしたトンボは「わが子」のように感じることを、主婦には

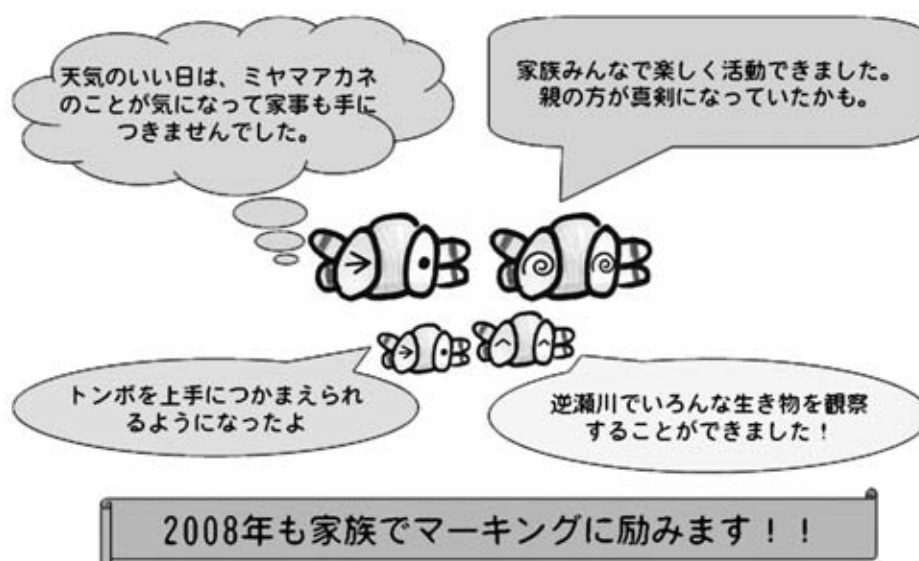


図2. マーキング調査に参加したわが家のそれぞれの感想
上左：清水知子、上右：清水政志、下左：清水 円、下右：清水 要

都合のよい昼間の時間帯に自分のペースで調査できることなどを挙げている。これに付け加えるならば、幼い子どもでも調査に参加することができるという点を挙げておきたいと思う。

先にも述べたように、ミヤマアカネは幼い子どもにも簡単に捕まえることができる。夢中になってミヤマアカネを追いかけ、捕獲し、マーキングした個体を空に放つ。この単純な繰り返し作業に家族間の「競争心」が加わることにより、さらに家族みんなが夢中になってミヤマアカネを追いかけた。この結果として2007年度の成果（マーキング数1,447個体）となった。

また、普段は橋の上から見ていただけでは気づかないことを、実際に河原で活動することにより感じるができる。逆瀬川は自然が豊かな反面ゴミも散乱しており、マーキングのたびに目に付くゴミは拾って持ち帰った。マーキングを通じて、自然な形で環境教育を实践でき、また子どもたちも自然を大切にすることを育むことができたのではないかと思う。

ミヤマアカネの飛び交う逆瀬川は、わが家の休日の楽しいレジャーの場であるとともに学習の場でもあった。2007年のマーキングシーズンの体験は子どもたちにとっても大きな財産となったことと思う。

5. 今後の計画

2008年は、マーキング調査を更に充実していくための活動の一環として、あかねちゃんクラブのメンバーで西山小学校4年生の総合学習で行うミヤマアカネ・マーキングのお手伝いをしたいと考えている。マーキングデータの充実化とともに、マーキング活動を通じて、子どもたちが自分たちの身近な自然に対し理解を深めるきっかけになればと考えている。また、わが家以外にも捕虫網を持って逆瀬川に通う家族が出てきてくれればうれしいと思う。

2007年も新聞、テレビ等であかねちゃんクラブの活動が何度か紹介されたことから、一般の方からの再捕獲情報、目撃情報も数多く寄せられた。今後もマーキング調査活動をPRしていくことにより貴重な再捕獲情報が入手できると考えられるため、一般の人を対象としたマーキング調査も計画していきたい。

今後も好奇心を持ち続け、マーキング活動を続けていきたいと思っている。

謝 辞

マーキング活動および資料作成にあたり、ご指導いただきました兵庫県立人と自然の博物館八木剛先生、あかねちゃんクラブのみなさまに、ここに感謝の意を表します。

文 献

安達貴美子・河田真紀子・玉村佳子・玉村佳彦, 2007. 熱く燃えた!ミヤマアカネマーキング調査. 共生のひろば2号, 62-66.

八木 剛・足立 勲・三好百合子・藤井優恵(編), 2006. みやまあかねとすてきななかまたち. 兵庫県立人と自然の博物館, 64pp.

(注) 三校交流会: 2006年2月17日、宝塚市立西山小学校体育館で行なわれた。ミヤマアカネ・リサーチプロジェクトを実施している、宝塚市立西山小学校4年、仁川小学校5年、宝塚第一小学校4年の児童が集まり、研究発表会を行い、意見交換した。